

部内資料

婦人関係資料シリーズ

参考資料第50号

協同活動についての研究会議記録

労働省婦人少年局

ま え が き

婦人少年局では第十回婦人週間の目標として、「婦人の協同活動」ととりあげましたが、この問題とさらに深く究明するため、五月七日及び六月十日の二回にわたって婦人問題研究会議を開催し、別記諸先生の御出席を得て協同活動の向
題点についての分析検討を行いました。

ここにその要録をまとめて御参考に供します。

昭和三十三年 八月

労働省婦人少年局

出席者

(順序不同)

お茶の水女子大学学長
朝日新聞社論説委員
読売新聞社出版委員全幹事
評論家
東京農工大学教授
評論家
東京郡立大学助教授
日本放送協会婦人課長

堀山 政道
伊藤 肇
渡辺 智多雄
坂西 志保
大谷 省三
西井 清子
三井 為友
江上 フジ

主催者側

労働省婦人少年局長
労働省婦人少年局婦人課長 (司会) 高橋 展子
谷 野 せ っ

討議内容

第一回

協同活動の傾向について

活動の分野

参加層

社会的技能

下請採肉の役割——町内会を中心として

会費について

町内会の必要性について

政治との関係について

意識の啓蒙について

陳情について

補助金制度について

組織上の問題——地域性と市民性について

指導者養成について

第二回

三井先生の提案

指導者養成について

全国協議会について

行政機関の役わり

指導者養成について

全国協議会について

第一回

協同活動の傾向について

司会 今日協同活動の問題について、フリートークングをお願いしますのでございます

最初に 協同活動の傾向につきまして 先般の全国婦人会談 東京婦人会談等をおし
ていろいろお感じになったと思いますが 御意見を伺いたいのと思います。数字的なものにつ
きましては 私共が差上げた資料協同活動に関する参考資料 協同活動についての意識資料
でござん頂いたとも思いますが また少し補足的に申し上げてみたいとも思っております。
そうした傾向についてお話し合いをして頂きました後 指導者養成の問題 行政機関の役割
等について主として対策の面からお話し願いたいと思います。

それでは 最初に傾向についての数字的なことを 婦人少年局で把握したもののについて簡
単に述べたいと思います。

活動の分野について

活動の分野については文化的な面の活動 政治的な面 経済的な面の活動と分けてみます
とない意味の文化面が活発でその中にはいわゆる婦人団体の活動が主になります。たとえば
婦人の地位向上とか教育 娯楽 生活改善というものが多いうです。

参加層について

参加層についてはいくつかの特徴があり 第一に 非常に大きな層が参加していて 高い
組織率といふことが言えるようです。全国的にみますと 婦人少年局の調査による一全国の
二十才以上の婦人の六三%以上が 何かの組織に参加しています。それは市部の方がやや低
くて六〇% 郡部が六六%です。これは有収者の二十才以上の婦人の面から見ただけです。
今度は団体の会員という側からとりますと 延三十二百万の婦人が何かの団体に参加してお
ります。地域婦人会に七百万 未亡人会に百万 農協婦人部三百四十万 日赤奉仕団三百五
十万 PTAに千七百万 延べますから 一人の人が小学校や中学校と一人が幾役もや
っているでしょうが 合計三千五百万 ざっと申し上げたように参加している人が六三%で
すからその人が三十二百万を構成しているわけです。

これがいかに大きいかわかることは たとえばイギリスではたいへん大きな婦人団体とい
われている ナショナル アソシエーション、ウイメンズクラブが 会員二万です。
団体の種類としてはいわゆる地域的なつながりの組織への参加が多いわけで、婦人の五七
%が入っている。有志団体とか技能団体 振興団体に入っている人はそれぞれ一〇%以下と
いうように非常に崩れがあるようです。

それからどの団体にしろ入っている人の年齢層は 三十代四十代が多く、五十代がそれに
続いてあります。これは市部郡部に交りがないようです。

高等小学 中学 高校卒業の学卒の人は参加率が高く、大卒出の春の方が参加率が低い。

これは団体の中の構成ではなくて、国民の、個人の側から見たものです。職業別では、農業に本人ないしは夫が従事している人が組織されている率が高く、婦人少年局の調査では七六%、無職の人（いわゆる奥さん）は五六%となっています。市部というのは大変広くこの中でも最も組織率が高いのが農業をしている人ということになっております。

参加のきっかけは、みんなが入るから入るといふのが一番多い。たとえば町会婦人部については、三三%の人がそう言っております。町会というものの向題はそこにあると思います。それからまた婦人会も六〇%の方が、農協は六四%の人がみんなが入ることになっているから入るといっており、すすめられたから入ったというものもあります。自分から進んで入ったものもあるが、これは少なく、有志団体の場合は三四%あります。ほかは二〇%、一〇%に満たないところがあります。いわゆるおつき合ひで入るといふことがたいへん多いようです。

社会的機能について

その次に社会的にどんな機能を果しているかという向題を挙げてみただけですが、これは団体の存在、働きというものがどういう傾向かを、活動の分野ということとは別に考えてみたわけです。私共で把握した傾向としては非常に行政の下請裁肉的な役割を果していることが多い、ということが一つです。町内会的な役割、特に町会婦人部というのは全くその通りで、区役所の中からおろしてくる仕事をやってやうです。

もう一失傾向として言えますことは、これは主として、外国と比べた場合に、社会的サービズという役割が少ないのではないかと、自分自身の利益、自分自身を含めた周辺の利益向上のための働きが多い、具体的に言いますと、たとえば未亡人団体というのは未亡人達が集つて未亡人の利益を高めるための活動をするのであつて、未亡人でない誰れかが未亡人のための団体活動をするというのとは自ら違ひ、外国ですと後者の方が多いわけだたとえば盲人やつんぼの福祉をはかる団体があるが、盲人やつんぼの人が集つて団体を依るといふものではない、その辺に違ひがあるのではないかと、また一般に活動の役割として、実践活動というよりも圧力的な活動がよく行われる、陳情、あるいはもう少し派手にデモをすることが多くて、何か具体的なプログラムを展開するよりもどちらの方が多いという傾向も一般に言えるのではないかと。以上がその統計的、資料的な傾向です。

協同活動の今後の方向というものについても先生方の御意見を伺いたいわけで、特に協同活動の限界というふうな点についてもおきかせ願えたかと思ひます。たとえば、当然国の裁断がやるべきことまでやっていふという実がありますので、そういうことにもふれなからまず協同活動の傾向ということでもフリーな御意見を御用陳願えたいと思ひます。

下請機関的役わり

——とくに町内会を中心として——

坂面 一番目につくことは、役場とか区役所が、自分達で積極的にしたくないことを団体

に押しつけるということとです。寄付金とか切符を売るとか、赤い旗の金を集めるとか、何でも婦人会でやる。またそれをやることによって將來自分達が望むことを相手に押しつける権利があるというふうに相互關係が出来てくる。それに気がついて、「もうやらない」という決議をしたところもあるのです。

三井 そういう活動を止めたという地域婦人会はたくさん出て来ています。山口県にも滋賀県にも。大休行政機関はそういう婦人団体を自分の町村に合併し、統合して下請機関にしないという困る。町村合併の文書を見ますと、婦人団体、青年団体の統合ということがプログラムに挙っている。『自主的に統合するよう強力に指導する』と書いてあります。私が見たのは伊豆の大島の方です。

司会 町内会はとても復活して、東京都で約二十五百ぐらい出て来ています。その町内会とこのほかには婦人部を作るといふのが一つのフォームになって来ようとする。

三井 最近婦人団体が大分自主的な動きを始めて来て、行政機関の下請をしなくなったということに対する一つの反対傾向の形として町内会の婦人部というものが出て来ている。佐世保市などは、婦人会を二つに分けて町内会婦人部を作り、早く婦人会から抜けて町内会婦人部に入れ、そうしないと町会事務局をみんな公民館という名前に変えて、公民館長は町内会長がやる。町内会婦人部なら公民館を貸す、と言っている。

局長 婦人会をつぶすために町内会を作るといふのはどういう意図ですか。

三井 今までは婦人の票は旦那さんにくっついてたから票読みができたのが、婦人会が出

来たために婦人は自主的になって、票読みができなくなった。それは困るというわけですが、坂西 その婦人会がそれだけ自分の票を持ったというのはえらいですね。これだけはほめてあげてよい。

会費について

三井 会費は町会費を集めてその中から婦人部の費用、政治部の費用というようにしている。

五上 団体が必要な経費は会費として全員からとるわけですから地域婦人団体の会費はたいへん多くの人から集めるから少なくて済むわけです。その会費すら農協の婦人部はとらない。会費問題です。いぶん論議が斗わされたわけです。が会費の問題は相当意識にかながると思いますが、何をするかということが問題になって会費が集められるのですけれども、おっしゃる通り、合意ということが入っているから、あまり金を取られない方がいいということになります。会費という問題も相当今行詰りになっていると思えます。

農協婦人部は農協の物を売ったりする費用が還元するから会費などは要らないという問題、と町内会みたら、会費は婦人部としては要らないが、町内会費として納めるといふ問題と二つあります。

大谷 会費の問題は非常に大切な問題だと思ふ。会費を出すということはある意味で、社会組織の一部に住む役割を果たすことになり、おつき合ひで入っている場合にはたしかに会費を出した方がいいが、最初から会費を出せというとは絶対に組織できないと思ふ。

農協婦人部の成長過程を見ていて感ずるが、私は今の農協婦人部の在り方についてはたいへん恵観的だ。最初からオンブしてはいけないうことを言い続けている。しかし段階がある。全然農協婦人部のない県をばっておいでいか。最初は組織するためには農協の事業に協力させて、何がしかのプラスがあればそれを流してやって、一応組織を作るといふことは必ずしも悪いことではない。しかしいつまでもそれに乗っかっていると自主的な活動が制約されてくる。だからあるところまで成長したら自分達も会費システムにすべきだということも強調している。どうしたら組織を作り、自主性を養って、脱皮させるか、ということが問題だと思ふ。たとえば農協婦人部が昨年以來大きな仕事としてゐるのが、山代（やしろ）さんの「荷車の歌」の映画化です。農協婦人部が完全にカンパ活動をやっている。このカンパが成功して映画が出来た場合に、自分達の力というものが自覚され、その時には組織が固くなって、今度は会費がとれる段階になると思ふ。

組織というものを結論的にいうと、最初どうして芽を出せるかということ。芽を出したらどうぞ育ててゆくかというふうには、段階的に進まないで、会費をとるからけしからんとかあるいは必ずとらなければならんとかいうことに問題があるのではないかと思ふ。問題は、どうして育てるかということにあると思ふ。

町内会の必要性について

五上 今、日本中に下請を要求するような流れ方を官庁がやっているといふことは問題だと思ひます。たとえば求む羽根にしても、上から下に流すルートがなければできない。街灯

をつけるとかお宮さんの費用とか、そういうことは町内会でもなくても、そういう場合には、した方がいいのか、あるいは区役所の仕事として道を直すと同じようにして電灯をつけたらいいのか。そうすれば税金より他の費用を取られなくていい。

西 やってくれないから自分達でやらなければいけないといふことが出てくるのですね。
大谷 私のところでは、いつまで経っても街灯がつかないので話し合つて街灯をつけた。防犯協会に入れば、というところでやつてきたが私のところでは当番に電灯料を拂つて回り持ちで維持している。自分達で負担するといふことが一種の抵抗になっているので、どこから出すべきものだから当然だといふことにはゆめかない問題が、いまの場合あるのではないか。

町内会 町内会について御参事までに申し上げますが、昭和二十五年五月、政令十五号が出まして、部落会、町内会の解散を命ずるということがあった。それが昭和二十七年十月に失効になつて、それ以後は町内会、部落会を作つていいとか悪いとかの法的根拠はなくて、事実行為として出来ている。ただ政令十五号というのはとてもきびしい政令で、行政官庁、地方官庁の職員以外の者が住民に対して配給にしろ何にしろ行政に干渉してはいけないうことが明示してあります。それは今失効しているわけですから、現在の町内会あたりが、事実上そういうことをやっているといけないうことは言えないかもしれせんし、名目は、非常に自主的なものになつてゐるようです。南くところによると、特に新南地のようなどころはものすごくたくさん、町内会にあって、毎日紙が廻つてきたり寄合ひがある。そんなにまで住民に強制的なこと

まてていいのかという疑問が起きるのです。

渡辺 とお掃除 お勝手のゴミを取りに来てくれることを頼む。便所の汲取り みんな町内会同士でやらなければどうにもならない。

どこかに一つぐらい、いい町内会があつてもいいと思いますが……

坂西 私のところもあるのですが、二つに分れて、部落会というのがある。部落費というのを一昨年あたりから九百円ですが、私はそれに入らない。

西 前住んでいるときどうでした。知らない所に、お宅の町内会費はこれだけだ、とくる。「どういわけですか」と言ふと、「どうだか知りませんが決まりました」と言ふ。

渡辺 団地の管理人が年二回とにかく納めてくる。

五上 今度は町内会という意識がはつきりしたのは、今度アパートに引越してからで始めて町内会の会費というのを割り当て、また、聞いてみると隣り近所出すところもあるし、出さないとところもあるもので、うちは集団だからちよつと値切ったようです。うちの近所の荷灯は全部私達が個人で持っているわけですから、町内会は何をするのだと聞いたところ、やはりお祭りのときに寄付を取りに来ないとか何とかいうことで……結局何に使われているのかというところ、本来の目的には全然使われていないので、そういうことに使われていることが多いようです。

伊藤 お祭りのときと、伊勢神宮とか明治神宮の寄付、それから赤い羽根、そういう時には何か町内会の世話役みたいな者が回ってくる。毎月はこのないと思う。

大谷 戦後私の近所の小学校の先生が中心になつて、デンマーク体操を指導してくれた。そのグループが中心になつて研究会を始め、そのうちデモクラチックなPTAをつくつた。そこで啓蒙運動をずいぶんやると同時に有志が懇談会というものをやつた。それに続いて「明るく生活会」というのが、環境衛生をやつてゆこうというので、ゴミの処理等を明るく生活会の名において区役所に頼む。そうしてとうとうレールに乗せてしまった。会費も多くなかった。街灯を立てるのも、自分達の負担においてやつた。完全に自主的なものです。

五上 昔の隣組みたいな毎月集るとか、時々呼出しがあるとか、また別にびっくりするほどの美事というものはないし、汲取りのことで区役所に一人一人で行くのが面倒ならば町内会に行つて頼むと、万事チヨコチヨコやつてくれる。そういうところでフワツと広がって、その中にどんな美事ができるか、先のことは分らないが、できてしまったのでしよう。

大谷 取のところは汲取りがなくなるとじかに区役所に電話掛けて、ラチがあかないと個人で行くのです。

西 面倒くさいから、誰かやつてくれているから、三十円か四十円で事が清んでいるから、経済的にもどうということないから私の地域なんか無肉心だ。

大谷 それが肉題なのです。たとえばね、PTAにしても、私達が忙しいから出られないと積極的に参加しなければ後援会的なものになつてしまふということとを体験して考えさせられた。だから手を抜いては、いけないということです。

坂西 肉題をしぼりますとこういふことになるのではないですか。町内会の婦人部という

ものが結局昔の愛国婦人会ですか国防婦人会みたいなものになって、ほかの団体がだんだん影が薄くなってゆく、そういう傾向にある、そういうことについてまじめに考えなければならぬ。

西 この向、婦人会の役員をやっているおばさんが言っていました。婦人会の仕事をするなら町内会では援助しないというが、どうしたらいいか、故養を高めることを婦人会でじたいが、と困っている。

伊藤 その向題は、全国婦人会議の才一部会ではっきり出ていました。ある人が自分の地域の婦人会は巧くいつていて、町内会と一語になつた。すると町内会員と婦人会員と別々にあつていたのが一本になり、町内会員と婦人会員二通りつていたのが一通りになつてしまふ、少し安くなった。家庭の主婦は非常に喜んでゐる、と言つたら、みんなが「それはなかりい」と言い出して、婦人会の活動をするときはどうするかと言つたら、婦人会の幹部の方が町会のお金をもらひに来るといふ。それでは自主性がなくなつて、自分達がしたいこともできない場合もあるのではなから、その人の地域は住宅地でそうできるかもしれないが、東京で町内会をみてみると、大体商店連合会で、区会議員の選挙地盤といふことははっきりしている。そこへ婦人会がくつついたら、こんなおかしなことはないといふ。

大谷 私が抵抗を感じたのは、組織者の顔ぶれからうさた。

伊藤 もう一つ、東京の場合には誓束母の会が向題ですよ。

近上 町内会は実害がないように見えるといつたところで、われわれがたいにうかつな人

向がそういう事実を、地域にないと思つていても、よく調べたら、そんなものもあるといふことを、もう一度私は情勢判断としてもやつて、自分達の身の周りの地域の向題として、もう少し知らなければいけないと思ふ。

西 そう云えば私、思い当るものがある、この向町内会で文の人ばかり旅行しようといふ回覧板が回つてきた、私は行かないから「あ、そう」と回してしまつたが、それなどはくさい。

政治との関係について

伊藤 戦後特に保守党の票が多くて、婦人をおまきみていた傾向があり、ボスの持つてゐる票でゆけると思つたら選挙のときに狂つてきてしまつた、それは婦人会が自主性といふことを言っているかららしい、といふので、二二四五年、婦人団体に肉巻を持ち出した。これが文部省の社会教育の指導方針を変えさせ、政治を一生懸命研究しようといふ熱が中立的、といふ名目でだんだんそがれてきている。

政党的婦人部といふものが特に保守党は積極的になつて、ところによつてははっきり町内会にくつつけて票読みになつてゐる。

近上 文の人の票は馬鹿にならぬといふことに男が気が付いた。そうしたら積極的に特定の政党がその婦人団体を抱え込むとすると、婦人団体の数といふものが非常に優遇されるわけです、丸抱え風にかげではなつてしまふ、そうすると今までの女が、もちやのよなものを渡されたから、面白くてこたえられぬ、いわゆる政治的といふより

も政治屋的になって、「わたしは選挙は何も持っていない」ということになる。そこで、圧力を加えんとうにかければいいが、それがほんとうの政治的の圧力にならないで政治屋的の行動になるから、街のボスとあまり違わなくなった。現実でそういうことを公言している人は地方でみた。

西 中国の婦人代表団が来ることになっていたので選挙でめびたが、地方で聞きますと大阪あたりは、延ばしてもういたいのという声が出ている。選挙が始ったら、選挙のことで婦人団体があつとなつてしまった。

三井 最近に入党ということはありませんで誰々の後援会に入ってくれというふうになっている。

大谷 全国婦人会議や四部会で政治の中立性の問題が出て、中立化というのは何かという問題が出たがこれはいつでも地方の農協婦人部や、青年団の問題になることです。特定の選挙になるとそれとある程度党派性を持ち、やり過ぎて、あと困ったというものが出てくるわけですが、選挙の時に選挙運動をするから困るので、選挙の時に選挙運動をしなくても済むように日常の活動が大事なので、それが団体の中立化ということの実体だと思ふ。や四部会では個人が政党かという問題については、村の段階では個人だ、上にゆくほど政党、特に国会になると政党だということが大部分の人の常識だったが、今の段階では正しい結論として見ていいと思う。

司会 東京で三年前の総選挙の時に、自分で決りて投票したかと聞いたら、東京の女の人

は九五パーセントは自分の意思で投票したと言う。それではあなたも投票したのは保守政党でしたか、革新政党かと聞くと、どっちか忘れたと言うのが面白い。だから自分で決めるにもいろいろあるので、根本的な、どっちの政党に入れたか知らないで入れているというのがあります。

伊藤 組織を作つて動くという時に政治はこわいものという感じがこ、一二年急に出来てくる感じがする。

西 つまり政治がこわいということとは自分達は政治は語らない。先生からどうも政治の問題を最後に言つて下さいという注文がどこに行つてもある。婦人会長さんあたりが言いたいの、それを言い出すとその土地で逆襲がくるから自分は言えない。いざこざをやめたさい、ということも政治的な啓蒙も、何かそういう一つの整理役みたいなものにわたし達が動員されているようです。

伊藤 そこには中央から一人の人向が来ているから、何か方向を与えられたいと自分の頭がわからないという自信のなさがある。

大谷 それともう一つ、〇〇先生もなつしやった、というのを持ち回ろうというのがある。

三井 役所が団体の活動について調査をやる場合、文化活動とどくらくいやつてゐるか、政治活動とどくらくいやつてゐるか、というふうな聞き方をする。文部省の言う社会活動、政治活動も実質にはがらみ合つていてみな同じものだ。政治活動、経済活動にからまっていないうのは一つもないのに、そういうふうに調査するから調査を受ける方でも、最近文部省

は献養活動を重んじているらしい。政治活動はどうも嫌うらしい。ということになって、かえって分類して箱に入れる動きになる。

西 三年前の選挙に私は愛知の知多半島に行った。愛知県の地婦連から脱退したところですが。そこでさっきから問題になっている「自主的に投票しましたか」という意識調査を婦人団体がやった。たいへんな仕事ですが、やり遂げたいが、それに対して、選挙管理委員会からえらいお叱言がきた。そんなことを調査する必要がないというのです。

意識の啓蒙について

伊藤 私が婦人会の協同活動の問題で気が付いたのは、都市のグループ活動をやって来た連中で全国婦人会議に出て来た人を見るとさきほど文化的活動の問題が多いといわれたが、そっちが弱過ぎる。婦人の意識をしっかりとしなければならぬという勉強がすっかり忘れられてゐる。会議員の一人が、「洗濯するよりもグループ活動で勉強するのが大切だ。その意識を伝えなければいけない」と一生懸命言うが、他の人はそれが分らない。ほんとうに民主的な人間になろうという勉強。戦後の四五年文部省が主唱してきた線がすっかり引つゝんだということだ。一つのグループ活動の欠点だった。そうして、やっぱり生活改善、託児所とかについて、政治の方に意識がひかない。生活改善されて技術を覚えて、それ以上進まない。託児所が出来たら次に何をやりましようと思える。それが婦人団体の具体的な活動だと思ひ込んでゐるといふことを感じました。

家計管理運動にしても、家計簿をつけることによって生活のぶつかる社会的な矛盾というも

のに入つてゆかない。

陳情について

坂西 全国婦人会議が三部会ではほとんど全部の人が報告をしたり向題として取り上げたのは、何んでもかんでも陳情すれば出来る、ということでした。

ことにひどいのは、ある県から出て来た人で、身体障害者の話を新聞で読んで、これはいいことだと思つたから知事夫人に相談したら、知事夫人が早速陳情室に連れて行つてくれた。知事夫人が賛成してお金を出してくれると堂々と発表をしていたが実際は、何もしていない。三井 陳情ということでは悪いことではないが、陳情以前に、どれだけみんなが自分のものとして話し合ひをしたかということが向題だ。

西 話し合ひがなされないと時には間違つたことをとりあげることもある。埼玉で非常にいい婦人週間をおやりになつたが、最後の集會に、結婚相談所を県の予算で作ろうということと、もう一つ長又児の問題について、積極的に、夜間中学を設置してほしい、という発言をした人があつた。学校の先生がびっくりして、そういうことは困る、と言つていた。

大谷 陳情も結構だといふお話しだが、場合によってはやむを得んと思ふが、私共の見てゐる農村の団体の場合に代議士を先頭に立てるところがある。これが向題です。つまり政治というものを理解させなくする重要な契機になつてゐる。最大の啓蒙活動が投票だといふことを忘れさせて、あつた陳情運動が政治活動だといふふうになえてしまふ。だから陳情

というものがデモクラシーというものの根本的な基本的な限度を忘れさせることが一番大きな弊害です。それからいつも言うことですが、大体農村の場合には郷里から出ている代議士を先頭に役所を訪問して歩く。すると代議士も陳情にゆく時には局長、次官とかにいてもいんかんでいぬいをきかぬ。すると代議士よりもお役人の方がえらいという錯覚をもつ。そして代議士は便利屋で、祖国の運命を左右するものでなく、地方の利益の代弁者であり、そうして仲介をしてくれる便利屋だから、便利屋は資格なき者を選ばないということになる。陳情というものは民主政治を阻んでいる非常に大きな悪たということをはつきりさせることが必要と思う。

渡辺 しかし陳情の話し合いは結局いまだの会長やその団体のリーダーだけをやっているのだとにも、会員大多數の意思で陳情してるといふのはない。またそれくらいで解決されるようなことはまだほんとうの町では無いと思う。会員の大多數がどうしても解決しなけれはならないときには陳情などというなまやさしいことでは決して民衆は動き出さない。ほんとうに婦人の団体組織というものが女の人の自覚を盛り上っているなら米騒動がおかみさん達のエネルギーを持つと思うが、どの組織にもそういうものは無いでしょう。

大谷 いま言ったことは、つまり陳情害悪論で、たいへんな害悪を及ぼしていると思う。それは村の人が全部陳情に来るといふことは無いが、数人のボスが行くということだけでも村の中にその効果は流れてゆくといいことで、害悪が出てくると思う。

坂西 全国婦人会議の会議員の入の熱で、非常に道が泥んこでどうにもならないので、こ

の人は数人の人を集めて自分で出て行って道を直した。ところが水はけが悪いためまた元にもどり、みんなが何回もやるので、見かねて村が金を出して作ってくれたという発表があった。本当に困れば、みんなが動き出してきます。

大谷 いま問題は、どうしたら陳情などに頼らないうまいまのような行動活動を育ててゆくかというところにあるのであって、そこに行く道筋が問題ではないですか。

補助金制度について

近上 もう一つ、ちよつと飛躍するが、陳情する場合に必ず補助金などがまわっている。日本では補助金、助成金制度というものがあつたから陳情したくなるわけです。その長で両方から合っている。陳情の相手がある。しかも相手に何かあるかというところ。そういうものを持っている。

大谷 実際に動きがあるから困るのです。補助金を獲得する奴が今度選挙の際の票を握る。そういうことが日本の民主政治の発育を阻んでいる。

伊藤 官庁は補助金を握っていますからどうしても官僚国家になる。

坂西 有名人の多く人が頼む時には代議士は動いてくれるが、ほんとうに困ってどうにもならなくて首を吊ろうか、という人がいつでござんなさい。ソツボを向きます。だから私

が言うのはそういうふうな馬鹿な者に頼らずに社会福祉法というものを自分達のために打ち
振るといふことですが、そこまで飛躍してくれないのです。

大谷　そこまではずっとわからないでしょう。とにかく、一切の向題は補助金で解決する
という考え方ですから困ります。

五上　極論ですが、——婦人会であつた違ひの区で、送出された代議士があなたの方の会所の
道を直しましたか。この代議士はぐうたらだから戻さつたのだ。それから、あなた
のところの橋が補助金で直らなかつたか。そういう仕組になつてゐるけれども、そのために
何度も何度もあなたの方の郷里に帰つて来て、大事な国の政治を留守にして自分の家のことばかり
やつてゐた。つまりお勤めに従つてゐる人が自分の会社の仕事をあつぱり出して自分の家の
会所の米びつばかり勘定してゐるから怪しい。奥さんの立場から言えばお米の心配をしてく
れる旦那さんはいい旦那さんに見えるが、会社では何してゐるかわからない奴だから、——
とある人が言つたら、みんなびつくりしてゐました。

協同活動そのものが、どれだけ個人個人を強めてゐるかという目安と、どの会員の
もうすこし持つようにしなければいけないと思う。

組織上の向題——地域性と市民性について

司会　協同活動の組織の傾向としては地域的なベースのものが多いが、このことは広い意
味で市民意識の阻害になつてはいないか、——ドブ掃除も結構ですが、要するに自分の家
のドブをきれいになりたい、そのために隣のドブが詰つてはだめだからやるといふ状態ではな

く、たとえば東京の大田区の汚いところを協同でやろうというのではない。地域単位というものは
一見社会協同ですが、昔からの部落共同体にすぎなくて近代的な市民意識とは一線を画してい
ると思う。

大谷　それは非常に大きな向題です。初めの方は少し飛躍があり過ぎる、つまり教養にお
ける新しい教育といわれるものが、自分達が感覚的にまずふれる向題、その具体的なもの
の中から一般性、具体性をつかませるといふことだから、自分達の身近な活動を通じて矛盾
を感じそれによつてさらに活動を促進する、そのためには指導者というものの役割が必要に
なつてくる。

司会　身近なところに入つて生活をみつめることは非常に大切なことですが、その際に組
織の範囲というものが一つの生活共同体としての範囲にとどまる。そういう形だけの組織しか
ないといふふうな意識が限定されると、向題がありはしないかということですが、

大谷　ですから私は地域婦人団体というものに疑問を持つてゐる。

五上　地域婦人団体に向題もあるが、それならいま出てゐる小さいグループが結構かと
いうとそれにも向題があると思う。総合的な段階で意識が高まつてゐないのに、一つのグルー
プの中に引き入れられてしまつたといふことに向題があるのなら、それを細分化するといふ
こともよい。しかしその場合に、ただ小向切れにしたから巧くいつたといふ考え方も向題が
あると思う。

今度はそういう細分化されたもの、中から私達はどういうふうにしてそれを発展させて行
くかの向題をこゝで出しておかなければならぬと思います。

大谷 さっき部落共同体ということがありましたが、たしかに戦後の分野で部落の歴史的な性格ということはきつめのたいていへんな問題で、あんまり不用意に言い過ぎると問題だと思うが、かつての共同体的性格が残っているが、質的にかなり違っていると思う。しかしかつての共同体的なもの左翼を破ることが大事でそれを左翼を破るために婦人団体としての役割をどう考へるべきか。

私は地域団体そのものがいけないというのではないが、ただ細分化するという形で表現は納得できない。つまり自立的に協同の利益に基いたものが出来てくる。そうしてそれが地域全体として共通のものとして固まってゆくという発展過程を辿るべきである。そうだとすればそのような方向に誘導するということをやめるべきではないか。

西 そういう意味で、地方に行つて面白と思つたのは、今まで地域婦人会から抜けた人とか、新しく出来たグループの人が浮いてきたのが、婦人懇話会というような名前で見えなくなつてゐる。それが特徴だつたのです。

伊藤 私もそれを言おうと思つたが、今度の会議でこういうふうになつた。

農協婦人部の場合に、終戦後何かの機会にいい会があるからと時をかかれて行つたが、日本の婦人が一歩家を飛び出したなら、世の中はないものだった。これが一歩だったと思う。そうしてずっとやってみたら、あんなこと言つても大して何もしないではないか、と思うようになり、もう一度ふりかへつてみたら、自分の家庭の周囲に問題がたくさんある。ということに気がついた。いま西さんがいわれたように今度の全国婦人会議のヤ一部会に出てきた

人はほとんど小さいグループで互いに連絡というものがちよつともない。それは一つのものでは伸びないし、うっかりすると仲間だけで固まって排他性を持つてくる。どうしてもサークルとかグループとか、自己満足になつてしまつてゐる。そういうことを考へてゐる段階ではないかと思う。

青春防止法などという大きな政治問題になると小さいグループに分れては手を出せない。それで、いろいろな団体が横に連絡して大きな団体を通じて協同するということにすればいいと思う。

三井 いわゆる向う三軒両隣りの軒並相談的なものと市民性というものは連なり得ないものかどうかの根本問題を解決しないで、地域の婦人会を解消する、近代化するということは結論が出せないから、宿題に残す必要があると思う。

坂西 結局は市民の知性という問題ですね。

三井 だから地域性というもの、それを深めながら市民性に広がって行く質的な転換、その時に、全国的な大きな集団が必要ではないか、小さなグループでやっていても仕方がないのではないか、青年団だつてそうだ、われわれ手をつなぎましようとかやっても何にもならない。

大谷 ごつくばうんにいえば、いわゆる地域の婦人団体というのをこわす必要はないが、こわれてくれることが望ましいと思う。

ある農村で、地域側がつかかせる形で青年団を作つたが、この青年団がじやまになつて

いるという話がでている。これがつき破られなければいかたがない。

婦人団体と同じ目的意識を持った団体が出来てくるといふことは大事なことです。それが出てくると、自然的に上からおつかぶせたものはこわれるのは当然前段。

いまの農協の問題でも、上からおつかぶせたから矛盾ができています。これがどこでも農協をぶち回している。だからそれを批判しなければいけない。それは望ましいことです。

五上　それで私はこういう例を知っているのです。これは農村のお料理のグループですが、今まで大きな婦人団体に入っていたが、今度小さいお料理のグループを作ったら田舎のことです。それから流行って、人数が多くなって、ふくれ上って、自分の手ではどうにも仕方がないほどになってしまった。その人は、これはたいへんだ。私の能力はこれだけです。そういうので、二三人の小さいグループにしてしまったら初めて巧くいったというわけです。そうすると今度は地域婦人会に對しても、そう重荷もなく、自分達の活動を認めてもらっているというわけです。その人達がそういう実際的な経験を返して、しかも大きなものに対しては肉弾を持ちながらやっている。これはなかなか面白いやり方で成功していると思う。

渡辺　初め婦人会は大きい団体をもちて踊りか歌かで激勵して集まっていたが、それだけではもの足りなくて、次々に自分の周辺のわずかな人でグループを作って、身の周りのことを解決しようというので協同活動が始まった。しかし協同活動として取り上げた問題とはいふものの、まだまだ切実さが足りなくて、前に婦人会でレクリエーションをやったと同じ気持ちで協同活動をやっている。

したがって、その小さいグループの個人個人が、私にいわせれば外面博愛民主だ。しかし一応レクリエーションをやっていた婦人会が、とにかく協同活動に取付いたといふこと、これは一つの過程の上で価値は認めるけれども、まだまだそんなに高い実ま上げられる値打があるものではない。結局そういうところに来る人は、大抵富裕層でいかにも自分は金持だ、金持だと言いなから、金持だといふことで自分は金持ではないという反対の表現をしている。そういう人がどうも多いといふことに問題があるように見受けられる。

大谷　私は小さな団体が、自分達の生活とほんどうに取り組み、その中の矛盾を解決するのに大きいつながりを持たなければならなく、なると思っています。だから具体的なものを返してやっぱり大きながりを持たなければならぬといふことを自覚させることが大切だと思ふ。

坂西　けれどもこれは時間の問題ではないですか。

三井　単に時間の問題ではないでしよう。

江上　や四部会の人と話だったが、家さんの公休日を作ってその次の年には村会にかけ、村の公休日になったといったら、他の会議員が「公休日」に何か行事をしていきますか」と言った。そうしたらその人が「公休日」はみんなが休む日だから行事をしたなら、何のための公休日かわからない。レビシヤンとやった。

私はこのことは非常に印象に残った。この考え方は非常に進んでいると思う。団体は何かという行事をやります。大勢が寄り集まるといふ行事が何かで片付ける。婦人団体も行事をやります。

大谷 今の段階では片一方を全然いけないうこととは言えないと思う。そこらのところまどうかみ合わせるかということが何題でしょう。

私は、農協婦人部にはかなり期待をかけている。なぜならば彼女等は全部生産活動に従事して身を以て経済というものに苦しんでいる。あらゆるシワが彼女等に寄せられている。そこで何題に道筋をつけてやれば彼女等はやる可能性をもっている。婦人はやはり経済と離れては自分達の生活がないと思う。だから経済から出発させるということが大切だと思ふ。近上 この向ういた話ですが、農協婦人部は総費とそうでない人達が入っているそうである。総費でない人が入り込んでやるといふことがいひのですか。ほんとうの農家でない人が口を出してやるといふのは困る。私共は口下手で、そういうことからついその人達の言ひなり放題になる。それからいふないものを買わせられてしまうというのです。そういうわけで、農業をしない人達が実際に生産活動に従事している人を指導しているという状態です。これは一つの問題ではありませんが、もう一つは、東京の近くの農協に、四、五年前に講演をたのまれていつたが世話をしていた人が全部男の人だった。

司会 いまの向題との関連ですが、地域婦人団体は、男の会長が二十七人、副会長が十八人います。

三井 実質的には副会長があまりいい。会長はロボットです。

指導者養成について

司会 いろいろお話し出しましたが、対策としての指導者養成という方に入りたいと思ひま

申すまでもありませんが、協同活動を進めてゆくについての機材の一つとして技術的の向題、リーダーに適當な人がいないとか、いろいろな声が出ていゝるわけですが、実際にリーダーというものの養成が必要であるという前提に立ちまして、どこでどうやって養成したらよいかということについてお話し願ひたいと思ひます。

西 広島のある郡でこの向小の集りを婦人少年室がやったら、一人のお嫁さんが年寄から何か言われてうなだれている。何にかど耳かたむけましたら赤ん坊を失ったらしい。お婆さんがお悔みを言ったらお嫁さんが「お腹が痛くて手向が痛けまして」と言う。たいへん苦い過重の村で、四時向の仕事を六時向、七時向延ばしても休かなければならない。それで赤ん坊の面倒を見るひまがないから、悲しいけれども手向が痛けまして、という返事をしている。何んとかしななければならぬと思つていたらいいお婆さんがいて婦人廻向の三日向、一人のお婆さんが村中のお嫁さんお姑さんを集めてラジオを聞かせた。その日はちょうど村の小学校の運動会だが、そのお婆さんが学校に行つて、実は婦人廻向のラジオを聞きたりからいつたら学校でもいいことだから運動会はさきにのぼすというので、ラジオを聞きたために三日向運動会をのぼしてくれた。そうしてお婆さんひとりに集まつてみんな一生懸命聞いた。始めて婦人廻向というものがあつたのかというお婆あさんもあつて、その子供もお嫁さんひも来てたいへん喜んでた。

その指導者になつたお婆さんがどういふわけですういふことをまやつたかというところ、そこに

は短大に行つてゐるすばらしい娘さんが一人いた。自分は貧農だから高等学校を出れば農業を手伝わなければならぬが、自分はお嫁に行く費用は要らないから、衣食を準備してもらつたりに学校を出して下之の泣いてたのんだ。その娘に啓蒙されて、思ひついで婦人運動のラジオを村中のお嫁さんお姑さんに聞かせたという話を聞いて来ました。

司会 端山先生は今日御又席ですか、御意見が来ておりますから読んでみます。

「現在の指導者は多く戦前からベテランであつて、年令的にも若い人達によつて漸次その地位を変えなければならぬ。その意味で若い指導者の養成に心掛ける必要がある。指導者はもちろんその素養と経験に負うところ多いためであるが、また意識的に計画的に養成もできる。その指導者養成の方法として

一 若い人達を漸次責任ある地位につけること。

二 外國へ留学させること。

三 国内で指導者養成を目的とするゼミナールを設けること等がある。」

渡辺 その指導者の問題ですが、農村には農民組合があるでしょう。農民組合がもう少し教育活動をやつて、男の組合員のうしろにいる奥さんなり娘さんなりまで教育活動を広げてゆけばよいと思う。その奥さん、娘さんはたいてい農協の婦人部なり地域婦人会の会員になつています。

農民組合だけでなく、工場のおけ組合にしても同じことがいえます。組合は少なくとも一

般基本的に民主的な線を背景にしているはずで、最も近代的な民主主義に立たなければ労働組合は成り立たないでしょう。そういう組合の中堅の、しかもそういう協同活動に携わる人がなぜこういう地域婦人会とか農協婦人部を見捨てるか。僕等の経験で言いますと、家族と結びつきがあるのは争議のある時だけで、そういうことではいけない。普段から背景にある家族と共に伸びて行かなければならないと思う。婦人会を民主的な団体にするためにこういう組合は目を向けるべきで、組合員の背後にある妻君、娘さんに教育の手を伸ばして行くことが必要です。

五上 大伴婦人団体はこの団体でも目先の利益というものに非常に目がくらんで、ちょっと根本的にそれを成長させてゆこうと志さない。それに無形なもの、ほんとうは有形なものですが——人的資源を養成してゆくなどということとは思ひもつかないわけですが、何十人もの人を集めてグループを作ろうと思えばボツと出の奥さんではやりきれない。だからやっぱり指導者として、精神的には日常活動で訓練するとしても、婦人団体を動かしてゆくためには技術的な訓練をうける必要がある。人向というのは訓練をするべき点という志え方がある程度持たしてゆかなければならない。

次に、この訓練を誰がするかという点労働省でも文部省でもどこでもやってくたさればいい。YWCAなどはスタッフの訓練を六カ月征請にしてやつてゐる。生活費から講師の謝礼金などたくさん費用をかけてやつてゐる。そういう人をお金にかけても訓練しなければならぬという思想にキャンパインしなければならぬと思う。

坂西 それはたしかにそうですね。また磯山さんの御意見のように青年堂を外国にやれということもなかなかいいのですが、なかなかそうまでいいかない。

直接できる問題で一つばかり例を挙げてみるが、三年ばかり前に二十人ばかり四時南ぐらゐ座談会をした。その時に三十七の元先生をして最近結婚したという人がいて、非常に土地の事情にうがった意見を述べている。ところが婦人会の会長は町長の奥さんで、みんなが巧く利用している。ところが私はこの会長の馬鹿なことに耳傾けずに、この人を引っぱり出した。その次の年、その人が会長になった。外からの人の言うことがビタシン注射のように効くのです。

(32)

もう一つ千葉県の方に、四、五年前に行ったが、実にいい発言をするお婆さんがいる。その人がどうゆうわけでもいいかということと、その集まった人に証立立て、あげた。そうしたらその次の時にPTA会長になつて、去年は婦人会長になつた。だからそういうささやかな努力がみえるのです。

もう一つ婦人少年室と連絡をとつて、一時間でも二時間でもいいからその人がいいと思う人を集めてもらつて話をするという事、ことに夏はみんな講師として出掛けるでしよう。その時そのゆう仕事でできないかしら、地味な仕事ですけれども何かの効果があるのですよ。

渡辺 集まつてくるのが今の指導者でなく交替して出て来てくれればいいが。

大谷 今年はどうでもできませんが来年度の予算で、ブロッコリーの婦人会議のようなものをするために経費を、何等かの形で確保して頂けなうだろうか。

それから私は今日話し合つて、われわれ自身が、もつともつと勉強しなければいけないという事を痛切に感ずる。だから、婦人問題研究会のような相互の意見を交換し合うという校会を作つて頂きたいということ、これをこの校会にお願いしたい。それから、坂西さんの御意見に同意したことですが、大衆の集まつている組織がある限りにおいてみんなで手分をして出掛けてゆくという事が非常に大切なことです。

西 それと、地方の文化人、地方の大学の先生とか、地方の有識者といふのに土地の人というのは東京の先生というのに頼りすぎる傾向があるのです。地方の有識者と連絡をとれたらとてもいいと思う。そうすればまたその人を囲んでみんな勉強する校会が出てくると思う。

江上 私は指導者という言葉を取面先生がおつしやつたような精神的な指導者という意味に解釈してない。会を運営してゆく人というのは別の能力というのがあると思う。私は眞実を掴もうという態度の人なう充分指導者としていい。もう一つは、今は何人かの人の中に在つて会を公正に運営してゆく。しかもその中にその会が誤まらないで発展してゆくことを考える方に持つてゆく。そういう若い人を作つてゆく。

西 江上さんのおつしやることをするにも、やらなければならぬことがある。それは婦人少年室とかそういう関係の人がしょつ中見て歩いて、みつけておかなければならぬ。発見するといふ仕事です。

江上 今度でも

もう少し応募した人がよくわかつていければいいと思うのにわからない人

が出て来たというのは残念だと思ふ

坂西 ある所に招かれて行った。その会長というのはみんな十年勤続で、十周年記念で表彰されている。十年続いたというのはおだつたらみんなXまつける。まず、十年続くということがえらいことと思つてゐることをおけしからんということから話を始めた。文書でやるということに意義がある。

江上 運営委員会というのを作り、その委員の一人として、谷野さんなり、高橋さんが出て行くのはいいが、一応民間に運営を頼んであるという格好にして予算は出せないかしら

局長 お話何つていろいろ反省したのですが、西さんがおつしやつたようにたとえば地方の文化人が評価が低いとか、もう少し大衆に接触した婦人運動をやつてくれという声も地方に大きい。それが、婦人運動なるが故に言つていうつしやるのか、あるいはいつの機会でも婦人の立場はそんなことばかり言つていうつしやるのか。

渡辺 私たちの接触してゐる人にも限界があるのですよ。だからその人達はそういうことをまじやつ中興に置いてゐる。その人だけのかう回りですよ。今度も作文を話し合つて書いて協同活動した人達が出て来たから、普救生活的な仕事をしている人かと思つたら、そういう人も中にはいますが、大体上の層の人たちです。

大谷 それは限界はあつても現実はやむを得ない。ある業界新聞が、行政官庁としての労働者がどうゆうことをしてゐるか批判してくれと言つてきた。あなたはどいうことを言つてもらいたいかというところ、官庁のやることはけしからんということも言つてもらいたいという

とんでもない。これがなくなつたらどこかやるか。今年の全国婦人会議では、指導者層が多過ぎた気には不満があつた。しかしそれにもかかわらず私はよかったと思ふ。つまり何等か彼女等はみやげを持って帰つたに違ひない。集まつて本氣になつて話せばみやげを持って帰れる。だから限界はあるにしても何とそんなことを気にしないで、とにかく一生懸命纏うところを狙つてやつてみれば、それが長い間続く中に下まで押してゆく。今の日本の段階ではそれ以外にないと思ふ。

局長 私卒直に――今度の婦人運動の会議で、先生方にリーダーシップをとつて頂きましたが、それを伺いながら、もし先生方が一月なり二月なりこの人達を引張つて貰けたらそれがとてもいいゼミナールの指導者養成になるのだが、というふうに感じながら伺つていたのです。ただそういうことを感じてゐてもう一つ割り切れないのは、よその国は婦人団体が自分で指導者養成をやつてゐる。それです、めることを私共が何かの方法で与える道があるのかどうか

江上 YRCAなどやつてゐるところもあるでしょう。今心配してゐるのは、指導者を養成するということすら考へつかない層というものが婦人団体にはいっぱいある。それをどういうふうにするかと言えば、私はだからお役所にしてほしいとは言われないが、そのパソ種になるものを作つて見せる必要があるのではないかという気がする。

伊藤 有一部分の会議員の一人が、私の方は民主的で会長も何もいなくて、会則もありません、と云うと、他の人が、私の方は十六人ですが会長も副会長もあり、きびしく会則を作

つて、会長は必ず一年交替で選挙でやっていると。はじめての人とこのでは共同購入しているが、誰がリーダーということもなく、だんだんやっていると自分で勝手に分担を決めて、配給は誰、車運は誰というようになり、その中に立派な会長が出て来る。魚仕番は育ちつ、あります。と言っていた。

そうして協同活動をやっていると、お姑さんなどがいり顔をしなくてよくいいます。が、そういう場合は「あなたはお出でて来てはいけません」と言っていて自分達の仕事がお姑さんに譲りられるまで未だせない様にしていて、この話で実に具体的でした。

渡辺 いり活動をしている団体のリーダーはやっぱりいりです。リーダーというのは活動の中から生まれてくる。だからわれわれは、いりリーダーを作るよりも、まず団体のいり活動を通してもらうことがその中から新しいリーダーが生まれてくる。うの道ではないかと思ふ。

司会 それでは指導者養成ということ、何か特別に組織的に、計画的に、特にリーダーの技術面をトレーニングするということが必要があるでしょうか。

三井 具体的な内容からまずいろいろ考える必要はあるが、しかしやっぱり技術を身につけるゼミナールがなければ教育活動というものはない。リーダー養成ということを考える場合に、どういうカリキュラムでやるかということ、を考えたければ意味がない。

伊藤 婦人団体を動かしてゆくリーダーは、実践活動としていて人ではないかと。おツと出の人、が来ても仕方がない。例えばPTAの幹部なり役員をしていて、女の水準、それから女子青年

団を動かしている人達、それから寮外員つかないのは昔の女学校を中心とする同窓会を巧く指導している人、労働組合で婦人部をやっている人達など。

しかし、素直を持っていて、人達をどういうふうにして集めるかというものが問題だと思う。

江上 今回の婦人団体は、ファッション、ラックをめぐるところに、あれもやった、これもやった、今年は目新しいことないかなとよその婦人団体が何をやってるだろうと見ている。指導者講習会がもし行われて、そういう気持ちで出席したら、おそろしい。そうすると、一カ所に集めて教えられただけ、どう呑みにしても、今度、今度は結婚の簡素化だ、今度は小のグルーブの読書会だということになることは非常に警戒すべきだと思ふ。

大谷 地方に行きますと、非常にいいなと思う人がいる。表に現われたいが、未端の中にすばらしいのがいる。そういう人を浮かび上げて、リーダーに育て上げると、いうことは大切で

坂田 地方にほんとうにすばらしい人がいますよ。人間として実にすばらしい。ところが、実際虐待されている。あ、いう人達を大切にすることによって、地方がよくなる。

江上 そういう人のあつめ方は推せん制にしてはどうでしょう。

大谷 そういったことを是非、来年あたり実現してもらいたい。そしてその次の年には、そこに出た人達が優秀な人を責任をもつて推せんするようにする。団体とか地域婦人会、農協婦人部、この役所に所属しているを向わず、実質的に活動して大きな影響力を与えている

人を集める、そういうことを中央で何か作って頂くということがまず先ではないか。そして五年なら五年経ちますと、地方で自治的にできるところまであるいはゆくかもしれない。最初には中央集権的にかなりの段階まで引っ張ってゆかなければできないと思います。

江上 けれども、たとえば生活改良普及員は農林省が管轄している。その人達が年々歳々講習会に官費で来ているわけですから、そういう人たちを何んでもなく集めるというよりも協議会を崩して、今年は労働省の人がその日は一日もらって、ジツワリやるというようにしたらどうでしょう。

大谷 実績をみるとあっちこっちにいい人がいる。生活改良普及員でも、保健婦さんでもいいし、そういうことをまけておいて、立派な成績を挙げているのはどの所屋であろうともよべる形にするというためにはやはりお役所がやるということになると具体的な問題として差障りがでる。それを解決するためには技術的な問題だが、今の御発言はいいと思う。

坂西 アメリカ辺りでは大学に委託生として配属して、三週間か六週間教育してもらった。コロンビア、ハーバードなどにはそういう特殊コースがあります。ミシガンの方は、これとこれはこういう目的に沿うからと、時間をちゃんと組む。

西 労働者のリーダーだけれども、やっぱり基金をフオードとかから出して、労働者のためのゼミナールを作っている。

江上 地方へその土地の有力者が行けばみんな十円カンパなどして、百万円というお金を集める。地方議員などにお金を持たして、外国へやったりする。そのことを考えたならば、その人を丸抱えにして勉強させるお金がないとはいわせない。

局長 アメリカの労働組合は落達して、婦人の特別教育などしなくてもいいようになったが、その段階になるまでにはお金のあつた人が寄付などしたミセス、ルースベルトの労働教育のための民間団体があつたでしょう。

司会 インターナショナル・インデケーショナルというものがあつたでしょう。おれも金
は政府が出して民間の人が運営しています。オリエンテーションがあつたり、トレーニング
の内容としては留学とか、ゼミナリー、あるいは団体や施設などの見学、あるいは視察、それ
いうことの道をつけるだけでもサービスになると思います。

三井 市民活動ゼミナリーというふうなやればいいと思います。

大谷 地方の講師かどうかというわけではないが、中央でわれわれがこうして話しているよ
うに地方の人には問題を持っていない場合が多い、やはり東京にいる人は問題意識を持ってい
ることは事実だ。

だから、何かの形で地方の協力してもらわなければならない方に出てもらつて中央でデイス
カッションして問題性を持ってもらいたい。問題性を持ってもらえば、地方で流し方はた
くさんある。

渡辺 中央は少し意識過剰だね。

(市会)

第二回

司会 それでは前回に引き続きまして協同活動ということの分析、とりまじめを御願いし
たいと思いますが、今日は前回のお申し合せにより、まず三井先生からのレポートがござい
まして、それを中心としていろいろお話をすゝめていたと思います。

三井先生の提案

三井 この前の話し合でほとんど全部の問題を当ってしまつたわけですが、オ一議題であ
る協同活動の傾向についてはこの前かなり充分な現状分析ができましたのでオ二議題の指導
者養成と、オ三議題、オ四議題についてさつそく提案させていただきます。オ二議題の指導
者養成についてはさすが、昨年の専門家会議でも提案している関係上、もう少し詳しく考え
てみるければならぬという責任を感じていたので、これを主として申し上げまして、オ三
オ四議題につきまゝでは簡単に考えていることを申し上げてみる程度にとどめます。
I 指導者を養成するということとは婦人の協同活動を発展させる上に基本的に重要であると
いうことを確認したい。しかしこの問題からは二つの問題が発生してくる。

問題

A 指導者とは一体何であるか、どのような指導者が求められてゐる指導者なのかという
問題
B 協同活動とはなんであるかという、二つの問題が二つから出てくる。しかもこの二つ
のAとBとの問題は相互に関連し合つていて考えると考えられるのであります。私はこの二つ
の問題について一応次のような回答を与えてみたい。

(1) 指導者というものは大ざっぱに二種類考えられる。

A 比較的大きな集団の代表者として、集団の意志の實現のために先頭に立って骨を折る人。これが一つの意味の指導者。その次に、比較的小さな集団のまとめ役として、人々を空間的に連接させ、結びつけ、彼等が相互により学習活動と相互影響を展開してゆくことができるような世話役をする人。こういう意味での指導者。こういう二つが考えられる。

そこでこのAの意味の指導者というものをわれわれは普通先導者とか代表者という。Bの意味の指導者を世話人、あるいは条件整備者という言葉で呼びかえることが出来る。

(2) 協同活動についてもまた大ざかに二つを考えることができる。その一つの種類は、複数の人達が力を合せて対外的に何等かの影響を及ぼすことを目的として対外的に働きかける活動を協同活動という。この場合を協同的ないし社会活動、あるいは協同実践と名付けることができる。

ふ 複数の人達が相互に影響を及ぼし合うことを目的として融合し力を合せて相互の向上を計るけれども、対外的な活動を一つの目的にはしない。こういうような協同活動、この場合を協同活動としての学習活動、あるいは共同学習と名付ける。こういうふうには協同活動をたゞ二つだけに割り切ってしまうていいかどうか問題ですが、一応大ざっぱにはこの二つの形を考える。そして今挙げた(1)、(2)のそれぞれA、B

はそれぞれに対応し合っている。

II 現在求められている指導者はどういうものかというところ。これは協同学習におけるリーダー、すなわち世話人、あるいは条件整備者であるということを確認したい。協同実践の指導者というものは勿論非常に欠けていることは事実です。しかもいわゆる先導者とか代表者といわれるような指導者というものはスモール・グループでの世話人の中から形成されるべくものと考えなくては行けない。だから現在考えている計画的なリーダー養成の場合に、これを正面から取り上げる必要はないというところを確認したい。

III この種のリーダーをどこで養成するかという問題。これには次のような五つの場合が考えられる。

A 各種の民間団体がそれぞれ各自に自分の団体の員の中でこういう種類のリーダーを養成する場合

B 各種の民間団体が協力して、その所属団体内のメンバーを養成する場合

C 右の二つのものが自分の団体のメンバー以外のもので養成されて養成する場合

D 官方が経費を負担して民間団体の自主的な企画によって養成する場合

E 官方がその経費において独自に後援者を選別して養成する場合

右のA、B、C、D、Eという順序は大體私の提案者の考えですが、それぞれもっとも望ましい順序を現わしていると考えられる。

最初のAとDとどちらが望ましいかということとは問題ですが、私も厳密なこととは考えら

れなりが、しかしながら民間団体としてこういうふうな新しい指導者養成の必要に気づかせるということ、しかもどのような企画でどのような経費を要して指導者養成が可能であるかということを示し、またすゝめてリコメントする役目は現段階では官庁に買収されていると考える。

そこで官庁は、(1) リーダー養成の必要経費、(2) リーダー養成のカリキュラム、(3) リーダー養成の企画と経費などの資料を一般に普及する必要があるということを確認したい。

Ⅲ 小集団の世話人としてのリーダー養成のカリキュラムはおよそ次のような基本原則にもとづいて作らねばならないことを確認したい。

A よいリーダーの形成に際してはその形成方式において最大限度に非形成者——形成されるものの自主性が尊重されなければならない。

B よいリーダーの形成には理論よりも実践をオーにするのが望ましい。理論を叩こうということではなく、実際にやってみるということをおー義にすることが望ましい。

C よいリーダーが身につけなければならないものとしては、

- (1) 素早い人間結合の技術
- (2) 策定思考推進の技術
- (3) 調査活動推進の技術
- (4) 協同理解争項抽出の技術
- (5) 学習活動深化の技術等

V 一日のリーダー養成の所要時間、どのくらいか。時間を最低限、リーダー養成が可能かという基準については次の基準によって考えてみたい。その一つの問題を取り上げて、これについて集団討議をし、さらに簡単に文献やその他の意見を調査研究して一応もっとも素朴な共通の理解に到達するまでに要する時間を最低六時間と考える。これは非常に簡単なものであるが、察めたらかりがたいから、最低六時間を要するとして、この間はグループの中で同一の司会者、その他の係は同一の方々の任務、分担に属するものとする。

・ とうするところの標準的な一つの小集団の大きさを十人とするならば、小集団のすべてのメンバーが少くとも一度は一つの問題について司会者とかあるいは書記とかいう役目を一度は経験することを考えますと、六十時間というものが、最低限というふうに考えられます。連続しても六十時間、二週間は必要ではないか。

VI リーダー養成に対する学習内容は、これを一つの雛型として示すと次のようになるであろう。

A 小集団を形成する手掛りはどんなところに行われるかという問題、スモール・グループを形成する手掛りはどんなところに行われるか、こういうものを集団討議で研究を続ける。

B 小集団の集会の場、設備、集会通知はどのようなにしたらいいかということの研究。

C 小集団のレクリエーション指導の技術の研究。小集団を一番早く集団化してゆく、仲間作りしてゆくにはレクリエーションが大事だといわれている。

D 主題設定技術の研究 どういうふうにして研究主題を取り上げるか、どういうふうにしてグループのテーマを取り上げるかということの研究

E 学習教科、教材使用上の長短の研究

F 調査活動についての研究 これは集計活動やインタビュー、どういうものも含む

G 集団思考の推進の研究

H まとめと確認、適切な宿題、配分方法の研究、まとめをして最後に確認をする、どこでまた確認の時に、次の時に集まるまでどういうことを調べてくるか、誰にどういふことを聞いてくるかということの取材のアーワイメントの研究

I 小集団の連携方法

J 小集団の拡大と分離活動についての研究 これはスモール・グループが今後未加盟であつた人達が加盟してきてだんだん大きくなる、望ましい集団活動ができる以上に大きくなった場合には、細胞分裂みたいに分裂しなければならぬが、それをどういふうにしたらいいかということの研究

K 学習課程と実践活動との向にある問題、普通の場合には学習の課程というものを本当に踏み固めることなしにすぐに実践にぶつかってかじがこわれてしまう、グループさえチリチリになつてしまふ状態が多いが、その実践と学習の関連についての問題

L 広報技術の研究 これは自分達のグループでやっていることを一般に知らせて、グループ活動のよさを知ってもらふということと同時に、自分達のグループでまとめあげて

実践までつめてゆきたい問題をそのグループやグループに入っている人と呼びかけてゆくための広報技術であります

リーダー養成の講習の企画者、助言者は右の学習内容にすべて満たされるように配慮しながら受講者が小集団を形成し、それぞれに自らの課題を発見して、あるいは与えられた課題を解明して望ましい技能を身につけつゝあるかどうかをたえず慎重に表現化してコースを進めてゆくことが望ましいのである。リーダー養成ゼミナールにおける小集団形成の基準は、ゼミナールで団体、小集団をどう形成するかということ、基準としては母令列の形成、階層別の形成、あるいは放養列の形成とか所居列の形成など、いろいろの形成の基準が考えられるが、いつの場合にも中心的な配慮として、居住地域列の小集団形成というものが考えられなければならない。居住地域列というものが常に中心問題に考慮されてゆかなければならぬ。これはゼミナールが終了したのちも自主的に継続研究の組織を維持してゆく上に非常に重要である。最後に行政機関、官庁というものの民主化の状態、日本の民主主義の深奥の状態というものから考えると大勢の助成金を受けるについての助言がある。オーに自主性を失ふぬなということ。オーにすべての求める団体公平であるということ

三番目に団体の大きさというふうなものに応じて費用が配分されるということ、必ずしも適切ではない、なぜなら名目会員というものが非常に多い、なんら会員意識のないものがあるが、実質的に、具体的に現れた事情、実情について助成する、例えば何人

ぐらゐのリーダーを養成するゼミナールをやったという。その規模に応じていくつといふふうには、具体的に事情、規模に応じて考えるべきではないかという三つの条件がある。現在の状態で助成金はいけなかつたのである、何もできなくなるではないかというのが私の考えです。

才三議題の全国協議会の結成の妥当性については、問題は妥当性よりも可能性が問題になってくると思う。おそらく可能性はないと考えられる。自主性を失ふわけでもないものを結成する可能性はない。戦時中には大日本婦人会という自主性を失ふわけでもないが結成されたが、現在の状態では協議体すらほとんど可能性はないのである。協議体が結成されることは、基本的には望ましい、しかし単に一つの問題がいつさかの団体を蝕蝕するということとは到底あり得ない。同じ協議体でもいくつものものが生れてくるかもしれないし、それであつていいではないか、実質的には、社会活動としての実践上の問題に依じた協議体、例えば虎春対策ならば虎春対策という問題に依じた協議体というものになつてゆかざるを得ないのではないかと、この方が私の考えです。だから民間団体にしても官方にしても全国協議会を結成しようというふうに強力に進めることは賛成できない。

政治的中立という問題についてはこれは党派的中立を混同してはならない。政治的中立ということとは、実質的にはあり得ない。ことにそれが個人的な問題になつてくると、政治的中立はあり得ない。集団としては政治的中立が望ましいというふうな案

団がいくつでもあり得るということとは絶えます。その中の個人、個人は一党一派に偏しているというふうな、集団としてはいけば党派的の結論を出さぬということと一党一派を支持するとかしないとかいう結論を出さぬ、こういう意味ではこういう団体は学書団体と名付けてもいいが、こういう党派はどういう考えをもっているかという批判の立場をとるような学書団体といつてもいい、と思う。そういう問題と政治的中立という問題を混同して政治的中立ということが説かれる場合に今の団体を政治からタブーにしてしまふ。団体にとって政治というものをタブーにしてしまふという危険性を非常にもっている。ことに最近出席した婦人団体のある集りでは、思想的中立ということすらいつて、思想的な中立なんかが全くナンセンスであるが、そういうことすらいわれる状態がここから出てきているのではないかと思う。

最後の才四議題の行政機関の役割というものは広範的な役割がオース、予算があれば助成的役割があるが、リーダー養成の時に提案した通りであります。非常に簡単ですが以上の通りです。

指導者養成について

司会 御報告を中に御討議を願いたいと思ひますが、はじめに御質問がありましたらどうぞ、なければ内身に入つてお話し願ひたいと思ひますが、今日の会議で協同活動についての大体的な方向づけ、問題点の分析について、一通りとりまとめをしたたいと考えております。まず指導者養成、これが御報告の大部分で、大変大きな問題ですので、順序に従つて充分

にお話し願いたいと思います。先生の指導者養成の計画案と、まずか、構想の大前提に比較的小さな集団のまとめ役としてのリーダーの養成ということが、こゝで審議するべき指導者養成の、指導者の意味合だということがあつて、それに基いていろいろ御計画が述べられたのですが、そのあたりから一つ御検討願ひまいしょうか。

渡辺 御提案は、世話人あるいは条件整備者といったふうなリーダーを養成することによつて、その人達がやがていゆゆる指導者のリーダーに形成されていくという考え方ですか。

三井 どうです。だからまずこの世話人をしてのりリーダー養成だけを考えればいいのではなかつたかということですか。

渡辺 ところが現実に見て両者はまるで異質のものでありませんか。いい指導者になり得てもその人は必ずしもいい条件整備者にはなれない。それからすればむしろ優れた条件整備者であつても、その人は必ずしも指導者としてはむかひない。それは性格的に非常にいろいろなものを用意した人ならばなり得るでしょうが、本質的には何か異質のもものではなかつたかという気がする。

三井 本質的にでなく現象的に異質なのですか。小集団の中心とまり得るといふリーダーでなければ、大集団を民主的に指導することも不可能ではなかつたか。非常に非民主的のリーダーが出来てくるのは、小集団さえリードできない人間がいきなり大集団のリーダーに立つからなのです。

坂西 日本の社会に、伝統的に本格的な指導者を育てる条件がなかつたところからくる

ものではなかつたか。

渡辺 確に現実には異質的なものです。然し始めからあるリーダーだけを考へてこの問題を討議しても、無理が出来ません。

三井 それは全く賛成です。現在やっている町村の婦人会長さん、婦人会リーダーをいくつ集めて講習しても何もならぬ。これがいろいろの婦人グループと対立している状態はどうしても解消できない。

渡辺 だからみんなが自分のまわりの小さいグループのリーダーにもなれるが、一国のリーダーにもなれる、そういう場合というのは極めてまれなのです。

西 地方の指導者講習会をいくつやっても仕方がないというが、現在、大きな組織があるし、もう一べんなんとかしなければ、そのまゝほっておくわけにはいかぬでしょう。

三井 私の今までの経験では、本格的なリーダーといわれる婦人会長、連合会長、でもその人自身がこういうリーダー養成が必要だ、どうすれば自分の後継者はいくつでもできるということがわかつてくれば、このプログラムを承認すれば、後継者はいくつでも出てくるのではなかつたかという考え方をす。

渡辺 しかしその古い型のリーダーが住んでいる社会的基盤からは新しい条件整備者の風しかもそれが指導者になり得るような世話人というものは、生まれにくいと思うのです。それで両方の住む社会的基盤を考へる必要があるのではなかつたかという意見です。

三井 その方向は、教育的なアプローチをなくして社会革命のアプローチです。そういう社

会基盤を崩すための農村の改革などもいろいろ大事で、北海道に行ってみると何代
というふうな家門を誇るものがないから、民主的集団が形成しやすいが、内地ではなかなか
できないというのはいさだかです。婦人会のリーダーを支えているという社会的基盤を突き
崩すのは別個のもので、あれこれとしては、人間を高めることによって、それが下に崩され
ていくことを望む。

渡辺 この御提案は無菌の培養器の中で通用するものではないですか。ところが現実には決
して無菌状態ではない。いろいろの雑菌がある。そういう培養器の中にこういう素直なもの
を無条件に適用させることができるだろうか。俗世とか習慣とかそういうものを考えなければ
ならないのではないか。

大谷 私は基本的にこの通りだと思いますが、こんな大がかりな本格的な養成をやらない
場合でも、集まっている人達ばかり熱心に勉強している。しかしそれを組織する立場にある
人が極めて不熱心だ。つまり講習会をやりますと、講習会に未だにいる人達が一生けんめい聞
くが、それを主催して、リーダーに任せればならぬ人が非常に不熱心で、講習会をたゞの行
事と心得えている。そのように行事としてやられているところに、一たん問題があるのではない
か。世話役の養成の場合も、先導者の養成の場合も、結局僅しに魂が入っていないところ
に問題があるのではないかと思う。

坂西 しかしその前に、渡辺さんのおっしゃったこと、痛びつけて、浮いてしまふ根本の
原因はこういうところにあるのではないかとと思う。問題が自分の身近なものにいつもおちて

いかな。たとえば指導者が一生けんめい力を入れているがもしそれだけけれども、他の人は
機を向いている。どうして本格的にやりたいと思う人が一生けんめい協同研究でやろうとし
ているが、指導者の方では耳を傾けないという。問題のつかみ方から来ている場合が非常に
多いのではないか。

大谷 私が云ったこともどうなのですか。つまり問題が身近な問題で、自分達が何とかしな
ければならぬという問題であれば、先導者に相当する人も、条件整備者に相当する人も共
通の関心を持たなければならぬ問題ならやれると思う。問題のセレクトの仕方が非常に宙
に浮いているのではないか。ですから学習活動の内容こそが問題だと言う。学習活動の内容
によって、むしろ形式が形成されてくる。わくを作ることより前に何をとりあげるかという
ことが問題になる。その何をとりあげるかということがポイントをついていけば、どちらの形
でもやれるのではないかと思う。

渡辺 もう一つは、こういう養成をする場合、対象としてどれをつかもうかということだ
す。今まで通りのやり方では個々の条件整備者の輸入を養うという目的でその会を持てるだけ
で、そこへ出てくる人は決まった人になりません。

近上 渡辺さんがおっしゃったように、雑菌のたくさんある社会ですから理想案というも
のはあっても、どういふふうにとれにほめこんでいかなければならぬかというのが一つの
問題だと言う。今までどこも先導者というものは、本当は先導者ではなくて與えざる、反
射的にそこに坐って居心地も悪くなかった人です。そういう人に大きな団体の先導者の資格

を行き過ぎる。大きなグループとの調和、あるいは異質的なグループの相互の調和をどうしたらいのかという、技術的な問題があるような気がする。

大谷 私のいったところで、ちよつといひ足りなかったが、基本はやはり御提案のように小グループに置き、今後はこゝに目をつけて育てゆくことが大事だと思ふが、現在の指導者も異質だからといって排除すべきではない、一語に勉強させればこの異質が変り得ると思ふ。

西 最近大きなグループの中に小さいグループができて、大きな組織の方が解体しがけているという傾向がありますね。そういう問題をどう考えさせるかということも、実際問題として出て来ているのではないですか。ですから非常に大きな組織の指導者の教育というものは大きな問題になってきていると思います。

渡辺 めたくしはそうやって大きな先輩者——いま、古い存在として早く脱皮してもらいたいという人も含めて、やるのは限界があると思う。小グループの指導者に力を入れて集団的にやるということは効果があると思うが、そういうことを官方がやるのは無理ではないか。

大谷 提案されているのはムーヴメントだから、ムーヴメントになり得るかどうかに問題がある。

近上 よくない指導者だといわれる人の中には人に無理強いされて身銭を切つてやっている人もあるでしょう。その大ボスに居心地よくさせておいて、返せお前はあぐらかいてける

かといつてみても、大家がどうさせている場合も多いでしょうね。その人達がみくためにあるたが意図と口うめではなくて、これ程大きな組織のリーダーになるにはこれくらいの特権があるという、パターンを示した方がいゝのではないかしら。

司会 スモール・グループの指導者養成は絶対に必要です。同時に大きな団体の指導者を養成することも必要ではないかという御意見もあるようですがその場合方法論としてはスモール・グループにおける指導者養成と同じものでいいのか、別の技術があるのかという点を一つお話し下さい。

近上 私は本質的にスモール・グループのトレーニングと同じでよいと思う。

渡辺 しかし技術は身につけてもやっぱり素質というものがあつていふうね。

近上 集団になるとことを選ぶのにある約束をふむ手続が必要になる。我流でやっている人は入がついてこない。これはやっぱり集団生活で人が何かの目的で集る時の理だと思ふ。

坂西 私はあまり地方まわりをしないが、見た範囲では、いわゆる地方の先輩者という人達の代表者は、占領下の司令部の指導者指導者としてのテクニクというものを知つていますね。しかし同時に非常にどしどし使つて、どういふふうには愚民をたぶらかすかという技術まで身につけている。どうして大家がそれは会議の方法にあつてはまるいのではないかと。どういふふうな弁明をすれば切り抜けられるかという技術までよく知つていますよ。

近上 会の運営をみると、あれよあれよという程、一応形だけは民主的になつていますね。

際問題としてできることなのかどうかという疑問を私は感じたのです。

三井 私はいまPTAの会長として、PTAを基盤にしてこういうリーダー養成のものを計画してはいますが、二週間という時間とはできませんね。せいぜい十日、三十時間、それを一週間おきぐらひにとるといふ考です。

司会 リーディング養成の技術としては講習会というのだけが挙っていますが、講習会を何回か連続して養成するという方法はいかづですか。

三井 おそらく不可能だと思いますね。不可能ということとは、失敗と結びつけるという原則をふみはずすからです。

司会 たとえば一つのグループなり団体のリーダーが、ほかの団体の活動状況を少し見学するとか、あるいは地方の行政機関の機構がどうなっているかということの研究するというためにトリップをする、そういうふうなことは考えられませんか。

三井 それも小集団活動——これはかりとめ小集団ですが——という小集団活動の中で問題意識をもって見学するのではなかったら意味がない。

五上 講習会式というものはどういう形式かよくわかりませんが、私は十人ぐらいのグループでも事柄に応じてその方法をいく通りにも作って見せたいと思います。たとえばよくみんな、レクリエーションも兼ねて、お金を払ってどこかにいきますね。それだけのお金があるならどこかで缶詰になつて、リーダーの養成ということをはばんとくにじっくり腰を据えてやるというふうな方法もあるのだということをよく教えてあげればいいではありませんか。

渡辺 その場合、問題は、団体内で自主的に養成するか、他団体と協力するか、官庁が送んでやるかという問題になりますね。やるにしてもお金と時間とは絶対条件ですから、その限られた条件でいかに効果を上げるかということをもまず考えなければならぬでしょう。どこでどういう遊び方をするかということが問題になりますね。

しかも御提案によれば同一居住地でという一番大切なことを考えていらっしゃる、どうすると同一居住地にある研究団体とか複数的な団体が協力し合つて、日常生活の中でゼミナールを持ってゆけば、お金と時間の問題もかなり解決されるのではなからうかということでしょう？

とにかく一度に集めて文部省や各教育委員会が毎年やっているようなことはあまり効果がないですね。

三井 意味ないです。

大谷 めたしは、理想的にはどこまでゆかなければならぬと思うが、もう少しホータツルな案は考えられぬか、つまり簡便にやることです。現実の問題として農村を考えてみると、ほとんど不可能だ。PTAのようなところではできるかもしれない、あるいは特定の選ばれたところではできるかもしれないが、ムーブメントとしてやる場合には、広くはとてできないと思う。だからせめて二日なら二日、三日なら三日泊り込み、それを有効に使つてどの程度までできるかということを考えるケースでないと、実際問題として進捗してしまふ。

西 居住地でこの問題を取り上げてやるということと、もう一つどこかに集めて高い

技術を受けるといふ場合と二つある。

五上 いろいろのコースがあつて、一度に全部の講座がとれぬまでも、チャンスがあつたらリーダー養成のクラスに入つて、ワンコースとる。また家に帰つて実践していゝが自分に暇と時間があつてどういふことができるチャンスがきたら次の別なコースをとるといふようにしたらいいでしょう。

自分のグループに力をつけようという時にどういふ人が相談にのってくれるか、その引受け所はないと思う。だからどういふところに自分が自分の当面する問題も持っていて、しかもショート・コースでやれる機関があればいいと思う。

渡辺 静岡県では、婦人会と教育委員会と天催で、県内をハツぐういに分けて生活学校というのを一年間やった。ところが出てくるのは村の選抜で村長なり婦人会長の先導者が、後につきまといふ人を出してくる。

五上 それは集め方に問題があるのですね。どこかリーダーの養成をしているところがあつても自分は異質なものであるからそこには異質に行かない。例えばYWCAのようところが自分の団体でリーダーを養成することができそうですが、それ以外のいまだ指導者養成など手をつけられなかった婦人団体で協力しあつてリーダー養成ができるようなところに、非常にくせのないリーダー養成が持たれたといひのではなかつたかと思う。YWCAが計画しているのは、ローカルのリーダーを築めて同じ宿舎に泊つて生活費も出してやるわけなのです。これはほんとのリーダー養成です。

三井 それは非常に問題だと思ふ。軍隊の内務班の訓練みたいなことをやつてみて果していゝかどうか。

司会 YWCAといふのは一つの目的のある団体ですから、自分達にふさわしいリーダーを養成するという範圍なら結構なことです。

三井 それだけなら結構だが、小さいグループがセクト化するとか排他的になるのは基本的に地域を浮いてゐるからです。地域の問題にぶつかるところでできるだけ広がり、大ぜいの若に呼びかけようということになる。地域を外れて、訓練をやつてみても、地域改造とかわれわれの暮らしを高めるといふ基本的な何れ役目も効果もないと思ふ。

司会 すると、いゝゆる有志の団体に問題があるということですか。たとえば婦人の協同活動といふのはすべて地域に結びついたローカルの活動であるべきだといふような。

三井 問題があると思ひます。地域に結びついたと言つても、未精的なことに限らない。原水爆禁止も地域活動だと思ふ。

西 地域活動の中からは原水爆の問題まで高めていくということばたいへんなことです。しかし、地域活動している人達の原水爆禁止活動といふのは本質です。

たとえば地域の交通網の問題、青少年不良化の問題と実は原水爆の問題と結びついているから熟慮がある。それをすっかり忘れた者が原水爆禁止運動をしてほんとうの意味の力がないと思ふ。

西 それをどういふふうに養成するかといふことの技術論になつてゆくわけです。

三井 山形県に行つて気が付いたのは、山形での青年学級が行き詰つたのは、地域を浮いてサークル活動になつてしまつたからなのです。

渡辺 青年学級が勢ひ存在になつたのは青年学級振興法がとうせされたのです。だからいかに官庁が、せっかく親切にやつても、本来の期待と違つた結果になるということは、青年学級でよくわかると思う。公けのところから手を伸ばられるとどうしても自主性が希薄になる傾向があるということです。

大谷 三井さんのやつてゐる個別的なPTAならできるかもしれないが、労働省など労働省が、これがいいかうとすゝめた場合に、逆の意味に、転化する危険性があるからおそろしいと思ふ。

西 婦人学級のひび型が作られ、ばちになうえしてまた一つの規格統制品がたふさん虫来てしまつてしまふ。

大谷 それがいかに、いかに個別的に理想的なものであつても、すぐに全国的なものに転化して考えるのは疑問がある。

司会 地域の生活向上ということのためにつながら協同活動があること、これは非常に意味がある。それと同時に、地域を越えて——具体的に云いますと、女子の雇傭をどうしようとか、女子の高等教育をどうするかという、非常に機能的集団も同時にないと、日本の近代化という意味から危険なものがあるのではないでしようか。

三井 機能的な集団をいふことは云つてよい。問題はさういふ小集団活動の中で新しいリ

ーダーを形成しようということを努力する場合に、地域の問題を取り上げて、それを解決する中で始めて養成されるものでしよう。

司会 すると、もっと大きな集団のリーダーも含めて云つてゐるから話が混乱したが、さういふ場合にも地域性ということを非常に重要視しなければならぬか。あるいは地域を越えた、もっと科学的な一つのアラローチがあるのではなからうかということが問題ではないでしようか。仮に小集団活動が巧くいつて、リーダーがそこに出来た。その次の段階はどうしますか。

三井 小集団でさらに結合する場合に、一挙に大集団に移つてさういふ傾向がある。たとえば土曜会でも早の喪会でも、やゝもするとさういふ傾向があるが段階があると思う。小さい集団が身の回りの小さい集団と結合してさらにそれが同国の大きなものに結合して、もっと大きいところで活動をする。そこで新しい全体を統括するリーダーを選ばなければならぬでしよう。その中から養成されてくる。だから県単位なら県単位で、最も適切なリーダーが小集団活動の中でもまれて一人のリーダーを選ぶでしよう。そこでまた連合体を結合してまたリーダーが出来る。その過程で大集団が養成されます。

西 その形のものがいま出てきているのではないですか。各府県に行きますと、地域婦人団体の連合体がある。もう一つは婦人懇話会とかがある。さまざまの小グループが集まつて、懇話会という形をつくつていて大体今二本立の連絡会みたいなものになつてゐるように思う。司会 自然発生的なものに任せておいていいか。それともアドバイザーのコースが要るかと

いうことです。

西 大きくなつてゆくということが現実の問題として起ってくるならば、大きくなった組織をどうするかというリーダーの問題はやっぱり起れることはできないですね。

坂西 しかし、たゞ一回や二回で効果を挙げるのは必ずしも同じことをくりかえし、くりかえし、違った角度から持つてゆくということが必要になつてくるのはないですか。

三井 形の上ではくりかえされるけれども、内容的には違う問題を取り上げる。そういう過程の中で人間が形成されてくると思う。

司会 スモール・グループでリーダーを養成するやり方として先生がお出になつた案、それによつてスモールはもちろんラージグループのリーダーも、かなりの程度養成できる。もう一つは大きくなつた時に異質の問題が出てくるから、一つの技術的、何かの形の指導があるという、二つの意思が出たということでもまとめさせていたゞいて、あとは主として学習内容等ですが、これは特に御相談しないでもよろしいでしょうか。

三井 官庁の仕事としてどういうことをすべきかという問題は話しあつたらいいでしょう。司会 それでは、カリキュラムや学習内容は非常に細かい技術ですから割愛しまして、ここどういったプランをどう実施するか、特にその場合官庁ではどうするのかということ、御意見があつたらおっしゃつていたゞきまして、次の議題に進みたいと存じます。

(蠟山 氏 ↑ 出席)

坂西 さつき渡辺さんが静岡県の問題をお話になりました。私も二回ばかり出た

ことがあるが、みからみたおばさん達が並んで何もいぬないので、いくら骨折つても何も引き出すことができない。官庁がやるのか、地方自治団体がやるのか、あるところ、うがどういふ形で人を集めて指導するかどうか、これが問題です。

三井 私がPTAの会長としてやろうとしているのは、子供の手を通して子供とPTAの全会員にプリントで趣意書を出して、こういうことをやろうと思つたら、希望者を集めるやり方です。お金は区の教育委員会から出させようとしてやつてゐる自主的なものですが、経費の点に困るから校費を使う。

司会 蠟山先生、現段階ではスモール・グループのリーダー養成が必要ではなかつたかという先生の御報告がございまして、それに就いて大きなグループのリーダーの養成も何か考へるべきではないかというお話が進んでゐるのですが、先生が前におつやつていらつたり、いまにリーダー・ス・トリーニングのお考えなどもおもしろい、いたゞいたゞいかがでしょうか。蠟山 まずオーストラリアの各種婦人団体について、そのリーダーになつてゐる人は相当年輩である。年令的にも思想的にも、いろいろの点で若い人と合ふ点もあるでしよう。しかしリーダーシップという問題は相当の経験を必要としますし、人望などという説明のつかない問題もあると思う。今、いかに若いリーダーがとつて代るわけにはゆくまいと思つた。現在のリーダーといわれる人は次のゼネレーションに対してその仕事をゆづつてゆくという心がまえで次の人を養成したらどうかと考へる。人間はいつも自分はリーダーでありたい、持はあると思うが、いままでも同じ若かりリーダーになつてゐてはやはりいろ／＼な点で団体

そのものの発展を阻害することになるのではなか。単に婦人の問題はかりではない。政治家でも男子でもみんなそうです。どうかといって対立的にその問題を解決してゆくのでは健全な発達にならない。若し人に意識的にだんだん地位をゆずってゆくということではなにかということですか。

そういう若し人を五人なり十人なり、外国の婦人団体のマネーじの仕方とか他の団体との交渉の問題とかを視るために外国に留学させるという方法を行ったらどうかというのがオニ点です。

オニの点はリーダーシップ・トレーニングのための講習会を同いたうどうか。今行政機関がリーダーシップ・トレーニングにどういふ役割があるかということが問題であつたのです。講習会の開催などはできると思う。リーダーシップの一番むずかしい問題は什何の問題ではなくて、違ふ目的、立場をもっている団体との接触をどうするかということだと思ふ。小さい、一番底にある既存の団体を中心に、そこから育てゆくことは非常に結構なこと。一番大切だと思ひますが、同時に小さい団体が、同じ地域にくっつかある場合はだんだん交渉をもつてそれが大きくなるという必要がある。その違ふ立場の人を話し合がでさう。どういふ場というものが大事に思う。私が自分の周囲にあります問題を思ふ、地域の社会をみても、職業が違ひ、政治的な立場が違ふと全然交渉がなれのです。同じ共産の問題に對してもどういふ立場からお互に話し合つていぬ、どういふことではいけぬ、どういふ意味で、違ふ職業の人、違ふ政治的立場の人でもどん、話し合ひが出来るような人を作り

リーダーにつくらなければいけぬのではなか。もっとも基本的な、一つの地域的な団体などをもよく作りあげられるやうなそういうタイプの指導者を作りあげてゆくことが必要ではないか。それがなれぬのが今、民主的社会を作る上に一番問題なので、いさおのこれを政治の世界にもつてきても、とても対立が深くなるだけで問題は解決しぬ、そういうゆき方をリードできる人達を作らなければいけぬらうな思つてゐるわけだ。

司会 先程お話が、こうしたセミナーなりリーダーシップ・トレーニングの計画を実施する機関がどこにおかれるべきかということになつておりまして、官庁等から助成金を出して、民間で自主的に進めたらということができておりまして、次の議題の、組織上の問題とからめてやつてゆきたいと思ひます。この助成金の問題につきましては、先程三井先生のレポートでも、民間団体に活用させることは悪くはないけれども、その際自主性の失はれぬやうにすべての団体が公平に扱はれるやうに、団体の大きさ等によつて助成される額が変らぬやうにという三点があげられたと思ひますが、組織上の問題として全国的な協議会など、婦人団体の組織としてはどういふものが望ましいか、また可能かどうかにつきましては三井先生は可能ではないかといふ御意見だつたと思ひます。また政治的中立という問題につきましても、党派的な中立といふことが問題なうあつて政治的中立といふこと自体はあり得ないのではなか。どんな御報告がさつきあつたわけですが、それらを含めて一つお話を願えらうと思ひます。

助成金については、それらのおおよぼ實際上の弊害とかは別として、法的にはどういふ根據になりますのでしうか。

三井 実際には法律にはないのですよ。憲法八十九条に違反するわけです。だから実質的には助成しても、名目は事業委託とか事業共催という形でやっています。

坂西 あれは社会教育法の十三条にのっとるくはないですか。

渡辺 するのです。その金はやれないのです。

三井 あれ十三条の改正では運動競技にはいいということになっている。けれども一般団体の場合はやっぱり憲法によって民間の団体に公の金をやううとするとはいいけないというところになっています。

五上 この間、二週前ぐらい前ですが、文部省で郷人の社会教育の今後の問題について御意見を承りたという放談会があったわけです。その時でも助成金の問題が出ました。ことにあそこは郷人学園に年向一万八千円、のべ三十時間、四十時間の助成金を出しているわけですが非常に無駄なことである。つまり助成金のために伸びる団体も伸びなくなつてしまつたという意味のことでもどいぶ出たわけです。出し方に問題があるのはないか、そんなチヨッピりなものなら買わなくてもいい、というようになければい、が、その助成金を少しも買わなければいけない、出すものなら千円、金でも買つてこなければという気分があるわけですが、それから一ヶ年を起す場合に助成金がなければ絶対にはやらないという考え方で、ね、つまりさとい水がなければということ、それから一寸でもあればそれに地方自治団体でもお金を出し、寄付金も集まる、という考え方が民間に横溢している。その証拠には一万円のお金を出してくれ、ばその金が集まる。報告する時には一人来ても三十人以上

来たと報告するという。文部省はそれで計算すると、その助成金でこれだけの効果があつたというわけ、また八十円、いや、その八十円でそのリポートということになる。だから助成金というのは危険なもので、ことに民主的活動をする上において非常に危険です。だから助成金ではない、ということに先程公平に出さなければならぬとおっしゃったが、公平とはいが、公平であるからそれが零細になるということであまり役にた、ないわけですね。

蛸山 大体学校教育でも、社会教育でも似ているのは、助成金の額が非常にすくない。要するに買つても、さうが、ない、やうなものです。ですからそのために自分達で何とかしようという意欲を減退させますし、それでは実際に立つかというところ、得た額は足りない、だからあの補助金制度はやめた方がいいと思う。実質的に費用とされているものは大体講師派遣費用、などというもののようです。さういうものなら実質的にさういうことについて援助もできる。必要講師を派遣するとか、今度労働教育協会とかいうのができるのだと思う。あ、いうものを本当に政府の手を離れて、政府は一億、二十億なり出して、あとは自主的にその団体が活動できるものを作れば、さういうところ、さういう種類の講師がほしいと申し込めば講師を出すというやり方の方がいい、のではなからうか、補助金を与えるというのは、それも派山ならい、が、あつたか、のものです。あまり効果がないと思う。

三井 青年学級については青年学級振興法による助成金があつたわけですが、なためにこゝで言っているところが出てくる。あれは青年学級振興法という法律の裏付けがあるが、郷人学級には法的裏付けがない。地方自治団体は新しい款項目を起すということとは容易でないし、

要求しても通らないから、文部省から送られてくる省の涙のような事業委託の金が出るとい水に
なつてそれが条例を作ったとか、それならば地方自治体の金も出さうということになる。そ
れでどうしてもこれが断ち切れぬ。

嶺山 それで地方自治体が抱き合せて額を相当額にするのですか。

三井 大体一万八千円文部省から出ればその倍くらいなものではありますね。

渡辺 ところが補助金制度で有名な農林省で、たゞ一ツ補助金を出さぬのは生活改善の
仕事です。やっぱりこれもこの問題の時に考えてい、と思うが、あの生活改良普及員とい
うのはグループづくりです。組織員です。むしろ非常に重視されているのは組織活動だと思
う。あれなどはうまくやっていますね。

三井 あれはケース・ワーカーとして活動しているから、その、それをするには人間を
かやさぬかつた駄目だと思ふ。

嶺山 それから団体自体がある程度まで自主的にやってゆくということを前提にして、地
方団体、とくに教育委員会などがそれを盛り立てる方法というのがあるのでは無いでしょう
か。つまり、例えば施設を貸すとか、施設にともなう費用は教育委員会の方で出すなどとい
うことはするがあくまで会の運営、婦人学級そのものの経営については教育委員会はタツチ
ないというふうに、自主的にやらせることはできるでしょう。

三井 補助金を出せるように法律を改正しようという動きは常にありますよ。

嶺山 政府が法律によらざる団体に直接援助するのはよくないですから、問題はこういう

形で法律的に拘束のある団体にするかということですね。学校法人まで、私立だからいけぬ
い、というのは憲法の解釈が行き過ぎだと思ひますが、少くとも実態が法人みたにあるもの
はい、が、ないものにまでいろいろやるというのは問題を起すのでは無いのですか。

坂西 もうすでに地方に行きますといういろいろの問題がある。会長や役員を選ぶ時に補助金
を貰えようというところを前提にしている。ここに婦人会、青年団はひどいですよ。

渡辺 法律でそれがやれることにきめたら大変ですよ。いよいよもつてあの人なら貰える
人だということになると、さうにひどくなる。

坂西 ある市では市長さんの奥さんが連絡協議会の会長さんだが、さうでないと金が出ぬ
いからやつてもらっているとはつきり役員がいつている。

渡辺 団体がたいてい数でい、ないのにそれをまかぬう力を自分でもたないということが残
念でたまらぬ。

三井 だって月会費五円という婦人会があるが、それすら集まらぬというのですから、
渡辺 だからいかにくだらぬ仕事をしているかということですよ。活動が自分達の生活
にはぬかえつてくるのならば出しますよ。

司会 社会教育団体とは社会教育関係の事業をする団体ですよ。それは、団体の内部の人
にやるだけではなく、講習会などオープンにして地域の人につくすのがその団体の仕事では
ないのですか。それが今はメンバー・シップのための助成金が出ているところによが
みがぬいていようか。

坂西 アメリカの州立大学ではエキステンション・デイビジョンがあつて、そののウィビ
スでやっていますね。

渡辺 日本では一般に学校を開放しなっていますよ。

司会 イギリスでは国や地方公共団体から補助金をもらっている。社会教育団体でも補助
金をどんどん貰っているが、これは社会教育の事業をする団体で、社会教育学校を作ったり
クラスを作ったりして誰にでもオープンに開いている。オリガナイズはしない。そういう形
で政府からお金を貰っておりまう。

渡辺 それは社会教育事業団体ですね。

三井 女子会館が経営しているあれです。私共の大学で専門講座を引受けてやりましたが、
地域の人から来たやつてくれと要求されてますか、ニリリです。全然赤字ですか。

蠟山 私の方でも三年続けて、四年目ですが、今年やるかやらぬかの問題です。残念だが
先生達に気の毒だし、やめようかどうか是案の最中です。

渡辺 労働省が学校に金を出すことはいつこうにさまたげないですか。

蠟山 できませんね。何等かの事業を委託した場合にはできますが。

渡辺 それなら文部省がやらなくて、事業委託を労働省がおやりになつて大学にエキステ
ンションおやりになつたら。

蠟山 どういうことはできないことはいないですがね。

五上 なにか身の上相談的にどこに行けば自分達の必要とするものを身につけることがで

きるというふうなところが必要でしょう。それとも一つは婦人会が個人のかでやってゆけ
といつても無理ですが十人か二十人かたまって共同責任において人を出すという気持ちにな
つたら駄目です。

渡辺 今迄問題になつた大きい団体の先導者は大学講座なら集ってくる。この人達の再教
育には非常にいいのですよ。あの人は非常に叔父主義者ですから、大学に行つて勉強して
それで教わつたということになるとう分のやり方が今迄まづかつたという反省が起ってくる
と、それと並行して地域でもう一つの条件整備の養成もやるという二本立ならいけますね。婦人
の地位講座ぐらひにしてやつていつたら面白いと思う。

蠟山 指導者教育をやることについては補助金の問題もあると思いますがそれは、これは
どまづがしくないと思う。しかし実際婦人のリーダーを養成する施設というものがぬいので
はないが、学校を出ただけではいけぬのでしよう。婦人運動とか婦人問題とか、婦人につ
いての特有の問題がある。それを一般的に基礎的な知識の上にクラス、ぬいとリーダーにな
れぬいから、そういうリーダーをつつたり婦人会議で集まってくるような人達の中から養成
するという意味で、特別のトレーニング、養成機関を作ればいい、と思う。

渡辺 その同意からビミナルの問題になつたのです。

五上 婦人会議を来年あたりは全国婦人リーダー養成会議というふうなことにして、少し
変貌をきたしたら、あるいは会議はやつておいて、もう一つ別にリーダーのためのものを
やることはできないでしょうか。今迄は素朴な人というのでリーダーは敬遠したのですよ。

ジャーナリストがリーダー問題をとりあげて宣伝すれば今までの頭でっかちのお飾りリーダーというものが馬脚を露してきますよ。

西 やり方によっては官製といわれますよ。

司会 ですからどういふふうなリーダーになる。トレーニングということは指導者養成と訳すより技術援助という意味ですね。

渡辺 一般も抵抗を感じますよ。だから婦人の地位講座として小出しに婦人会議リーダーゼミナールというのにはしておけばいいではないですか。

江上 特別の委員会を作ったことに一定運営委員を作った運営についてはおまかせしてこの形式をとればどうでしょう。

渡辺 それは名案ですね。労働省婦人少年局は非常に知性のある仕事をしてこられたのですからこの機会にどうか実践活動をやつていただきたいと思います。

最初はモデル的なものでも結構ですから。

嶺山 それで十人から十の婦人団体に委嘱して、将来リーダーにと思われぬ人を一人づつ出してもらう。そういう人を集めて講習する。お互のゼミナールですから、いろいろ内容は協議してきめることにして……。そういうことを契機として婦人団体の協議形式がいろいろはつきり出るのではないですか。いろいろなことをいさなり持ち出して、いさなりか協議できぬのから、お互の将来のリーダーを養成するためのこういう教育をする、そのためのゼミナールだということをやればいいのではないですか。

江上

として大なり小なり実践活動をしてきた人達ですから、いろいろの問題をもつてきていると思うから、吸収率は高いでしょう。通信教育のような形態でもとつたらいいのではないかと思う。テレビジョンが盛んになってくると、ラジオの方は送着いたプログラムをふやす方がい、から午前中のある時間は講座にするというやり方もある。NBSでも政治教育の講座をテキストを出して開放しています。そういうこともやろうと思えばやれるわけですね。そうすれば、自分達の送り出しがどういうリーダーでなければならぬという希望を一般大衆がもてるようにもなると思う。現在では補助金や寄付金を取るために都合がい、という人を一般の人が適当だと信じていると思うのです。

司会 一つの基準を設定するということになりますね。似たようなものでは労働省で事業として部と一緒に夏季労働大学をやっていますがあつたお金の流れ方は可能ですね。あつた講師の謝礼や施設費を労働省がもつて受講生が受講料を出す。そういう立前もやっています。

坂西 高知や鳥取など地方でも大学とタイアップして連携した夏季大学をやっているところがあります。

江上 夏休みというのは効果をあげるのに都合がい、時期ですね。

坂西 農村地方は冬がいいですね。

司会 でも婦人週間が四月ですが、何千人という人が応募するのですからどう時期を心配しなくていいでしょう。

全国協議会について

司会 い、案が出たところゝ、時間もありませんので、最後に全国協議会の問題をお話しあり下さい。先程三井さんは婦人団体が統合的ナショナル・カウンシルというものを作ることではできないといわれましたが、それがむづかしいかどうかという問題につきましては御意見がありましたら。

蜷山 只通の目的のために協議を必要とするものがあれば、いきなり協議会というものでなくとも、協議をするといういき方でゆけばいいのでは無いですか。

司会 するとどういったものが次山できると想定しますか。

西 それは恒久的なものではなく、そのとき／＼の目的のために特別にできるということでしよう。

近上 どういうのは次山できたい、と思う、またどこかで各種婦人団体の事務的な連絡の場所というものも、ごく自然な形でなさなくてはならない方が国際間の交流の場合にもいいのではなか。例えば労働省でして下さるならそれもいい、と思う。労働省の婦人課に各団体が登録しておけば外国からインビテーションがきた時にも、お互に推薦しやすいし、外から来ても日本は誰れに何をもちていて、のかわからぬということもなくなると思う。思想的なつながりをもつ人達だけがある目的のためにゆくといいことになったらだん／＼せまくなってしまうから、どこかにごく事務的な連絡機関をおくことが必要でしょう。また今いったように目的をもって協議会を作るのはいいが、ある時期になったらそれは解消してお互に

なければならぬ、いつまでもあるような、ないような形でおくのはよくないのではなか。司会 アジアのいろいろな国ではみんなナショナル・カウンシルを作って、みんなが一本になっていきます。アメリカだとそれだけ群雄割拠しています。何うはそういう形ですが、今日日本で全国協議会ができても、それが決定機関でなければ外国により人を出すというふうなことにいってエックの割わりはできないでしょう。

蜷山 協議会というものを今すぐ作るのではなくて、これは結局いつまでも信片のお世話を受けているのでは仕方がないという意味で、協議会が何をするかというよりも、お互に連絡協議のできる恒久的なものを作るといふことを目標にして、それを作るためにはどういふふうな努力をいっていったらいいかということはいろ／＼な方面から高めていったらどうですか。渡辺 ですからこのリーダーを養成する機関でも、教育などでそういう風運や気がまを

作らせてゆくということですね。蜷山 とにかく英国でオーストラリアができました時に、婦人の労働大臣が出たでしよう。あ、いうことが日本にいつできるかわからぬです。今のところ、善後からどういふ力量をもつて活動して労働組合などから出た人ですか。そういうリーダーを作るのが大切です。だから若いリーダーと既存のリーダーの再教育をやったらいいと思ひます。渡辺 いかし官方が初めから看板をかけると思ひがありますから、そこに自然に考へ方を

つてゆくような方向をうち出すことが必要でしょう。司会 それではどういふことが結論ということでしょう。どういふまいしょうか。

ありがとうございました。

協同活動についての研究会議記録

昭和三十三年八月一日 印刷

昭和三十三年八月一日 発行

発行者 労働省婦人少年局

印刷者 協立社荏原印刷所